

茨城県における天然ガスインフラの整備・拡充状況について

東京ガス株式会社

茨城県と東京ガスは、2009年12月に、「低炭素社会の実現」という環境・エネルギー対策への貢献と、産業振興・雇用拡大による地域経済のさらなる活性化を図るため、県内における天然ガスインフラを、双方が協力して早期に整備するとともに、有効活用を推進することについて、基本合意※<sup>1</sup>しました。また、東日本大震災以降の2013年11月には、天然ガスを適時適切かつより一層安定的に供給することで、茨城県をはじめとした関東一円のお客さまのエネルギーセキュリティのさらなる向上と地域経済の復興へより一層貢献すべく、茨城県において天然ガスインフラの整備のさらなる推進・加速について、相互に協力しながら検討していくことに合意※<sup>2</sup>しました。

東京ガスは、これらの合意に基づき、2015年度に、「日立LNG基地」（茨城県日立港区内）と、同基地と栃木県真岡市にある既存のパイプラインを接続する「茨城～栃木幹線」（茨城県日立市～栃木県真岡市、約80 km）を建設しました。さらには、高圧ガスパイプラインをループ化し、関東圏全域のエネルギーセキュリティ向上に貢献するため、2020年度までに「日立LNG基地2号タンク」と、「茨城幹線」（茨城県日立市～茨城県神栖市、約87km）を建設することを意思決定しました。

東京ガスグループは、「チャレンジ2020ビジョン」において「LNGバリューチェーンの高度化」を掲げ、その一環として「エネルギーの安全かつ安定的な供給」を推進しており、今後も更なるエネルギーの安全かつ安定的な供給に努めてまいります。

※1 「茨城県における天然ガスインフラ整備に関する基本合意書 ～低炭素社会の実現と地域経済のさらなる活性化を目指して～」

※2 「茨城県における天然ガスインフラ整備の推進・加速に関する合意書 ～東日本大震災以降の新たな時代の要請に応えて～」



東京ガスの供給エリア概要図

以上